

目的 乳幼児用の被服は、着用者の運動が激しいために汚れもつきやすい。従って洗濯回数が多く、実際ニ水を取扱、その色変化が特に目立つことに着目し、洗濯の激しい衣類を選び、試着試験を行って洗濯方法とその色変化について検討した。

方法 リ試料 ○乳児用夏冬物パジャマ各1種、○幼児用冬物パジャマ各7種、 2) 使用洗剤 ○乳児用：乳児用おむつ及び一般衣類用洗剤と一般洗濯用洗剤、○幼児用：一般洗濯用洗剤、(試料、洗剤は市販品)。 3) 洗濯条件 (1回着用直後洗濯) ○乳児用：手洗い、天日ほし、31回くり返し洗濯、○幼児用：一般家庭用電気洗濯機使用、乾燥機及び天日ほし、35回くり返し洗濯。 4) 試着試験者 ○乳児：8ヶ月児女子1名、○幼児：3、4、5才児男女各1名。 5) 試験項目 ○試着試験後の試料の色変化測定 (SM-カラーコンピュータ-4型使用) 試着前後の試料のXYZ, a^* , b^* , HVC, $L^*a^*b^*$ 表色系による ΔE (色差)を求めた。○試料の染色堅ろう度試験 (洗濯、汗、耐光をJIS規格に準拠)、繊維上の染料部属判定を行った。

結果 リ乳幼児試料ともに試着前の染色堅ろう度は、市販品として適当な堅ろう度(洗濯汗4~5級、耐光4~8級)を持つが、着用後の各試料は30~35回洗濯をくり返すと、等級が2級程度落ち色あせた。 2) 着用試料の変退色は、乳児用の場合は、おむつ、一般衣類用として市販されている蛍光剤無配合洗剤を使用した結果、蛍光剤を配合した一般洗剤で洗濯した試料と異なった変退色を示し、蛍光剤が染色物の色と与える影響が大きいことが判った。幼児用の場合は、部分的に摩擦による退色が目立ち、同一試料でも用いる洗剤、洗濯方法によらず、染色部分の変退色に大きな差ができることが判った。